

休眠預金活用事業 地域若者サポートネットワーク設立事業

九州若者サポートネットワーク

2025年度活動報告書



Contents

1 九州若者サポート ネットワークとは ----- 01	3 2025年度の主な活動 ----- 03	5 第2回 九州こども・若者おうえん助成 助成先団体レポート ----- 06
九州若者おうえん基金とは	九州若者おうえん基金 九州こども・若者おうえん助成	
2 メッセージ ----- 02	4 グリーンコープとの協働 ----- 05	6 ご支援のお願い ----- 10
メンバー紹介・運営体制	イベントの参加	

休眠預金活用事業 2022年度通常枠 地域若者サポートネットワーク設立事業

事業実施団体

特定非営利活動法人おおいた子ども支援ネット

〒870-0043 大分県大分市中島東1丁目3-5 シャガール中島2F おおいた子ども支援ネット内

Mail info@9sapo.com 公式サイト https://9sapo.com

社会福祉法人グリーンコープ



2026年9月11日発行

九州若者サポートネットワークとは

家族を頼れない、頼るべき大人がいない。幼い頃の虐待などが要因で心に深い傷を抱えている子どもや若者たち。体調を崩したり仕事を失ったりすると、頼れる実家がないために住む場所や食べるものにさえ困ってしまうギリギリの状況で頑張っている人たちが多くいますが、状況が困難であればあるほど現行の支援制度では対応できません。

そんな支援の網からこぼれ落ちてしまう子ども・若者たちをサポートしている支援者＝伴走者たちが各地にいますが、そうした活動の多くは持ち出しによって行われているのが現状です。

九州若者サポートネットワーク(9sapo)は、彼らに寄り添って伴走型の支援を行う九州・沖縄の伴走者たちを、市民や民間団体、企業の力を集めてサポートしていくことを目的に、特定非営利活動法人おいた子ども支援ネット(大分県)と社会福祉法人グリーンコープ(福岡県)との協働で設立した民間ネットワークです。

児童福祉のみならず、若者支援、まちづくり等多様な活動を行う方々とつながりあい、社会をデザインしていきます。子どもや若者たちの笑顔と伴走者たちの安心が増えるよう、おうえんしたりされたりしながらみなさんとうつなぎあえるネットワークを目指します。



九州若者おうえん基金とは

九州若者サポートネットワークが造成・運営する基金です。現行の法律や制度だけではカバーしきれない子ども・若者の困りを受け止め伴走する支援者や支援団体に助成を行うための基金です。地域のみなさまや企業さまから広くご支援を募り、集まったお金を助成金として伴走者たちへ届けます。子ども・若者たちの多様な自立を、伴走者への助成を通しておうえんしています。

Message

九州の多様な支援団体・子ども・若者との3年間を振り返って

九州若者サポートネットワーク(9sapo)が休眠預金等を活用した事業として取り組んでまいりました。3年間の取り組みが、このたび無事に満了のときを迎えました。本日ここに、その歩みと成果を『活動成果報告書』として皆さまにお届けできますことを、心より嬉しく思っております。この3年間で、私たちは13,329,850円の基金を造成することができ、九州各地で子ども・若者支援に尽力する延べ16団体に対して、総額9,338,011円の助成を行うことができました。これらの数字は、単なる資金の移動を意味するものではありません。その一つひとつの先には、地域で孤立や困難に立ち向かう若者たちと、彼らに寄り添い続ける現場の温かい手がありました。このような成果を結ぶことができた背景には、九州各県において子どもや若者の未来に心を寄せ、果敢に活動を展開された支援団体の皆さまの情熱があります。そして何より、「寄付」という形でこの事業に参加し、若者たちの背中を押してくださった数多くの個人、団体、そして企業の皆さまからの温かいご支援があったからこそです。皆さまのお志が大きくなるとなり、九州全体に支援の輪を広げる原動力となりました。深く御礼申し上げます。JANPIA枠としての3年間は一つの区切りを迎えますが、子どもや若者が抱える課題が複雑化・多様化す

る今、私たちの役割が終わりを迎えるわけではありません。

9sapoはこれからも、九州各地で子どもたちや若者を応援するネットワークとして、より強固に、そしてしなやかに成長を続けてまいります。地域や分野の垣根を越え、誰もが自分らしく生きていける社会の実現に向けて、歩みを止めることなく取り組んでいく所存です。

結びに、立ち上げ期から多様な面で事業の基盤をどしどしと支え続けてくださった「運営チームのみなさま」、そして、支援の届きにくい子ども・若者たちの“なかなか見えにくい世界”や現場の切実な声を、確かな発信力と温かい視点で社会へ適切に届けてくださった「株式会社Cont」、そしてともに歩んでくださった「社会福祉法人グリーンコープ」に深く感謝の意を表します。みなさまからいただいた温かいご支援とご期待に応えるべく、9sapoはこれからも九州の子ども・若者たちの伴走者として走り続けてまいります。今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

九州若者サポートネットワーク事務局長
(特定非営利活動法人おいた子ども支援ネット理事長)

矢野 茂生



Member



伊勢 強志
特定非営利活動法人
おいた子ども支援ネット 理事



岩朝 しのぶ
認定特定非営利活動法人
日本子ども支援協会 代表理事



運営委員長
相澤 仁
大分大学福祉健康科学部
特任教授



谷口 仁史
認定特定非営利活動法人
スチューデント・サポート・フェイス
代表理事



名田 敬仁
特定非営利活動法人
宮崎文化本舗 理事



スペシャルアドバイザー
吉田 一生
厚生労働省



山田 敦弘
株式会社日本総合研究所
リサーチコンサルティング部
シニアマネージャー



日高 容子
一般社団法人
グリーンコープ共同体 代表理事

9sapo運営体制

- 幹事団体 特定非営利活動法人おいた子ども支援ネット
- コンソーシアム団体 社会福祉法人グリーンコープ
- 広報チーム 株式会社Cont



2025年度の主な活動

Activity

1 九州若者おうえん基金 基金造成

民間団体や企業、個人の方など多くのご寄付を受け、助成事業に活用しました。

寄付総額

3,322,200円

内 訳	金 額（円）
公益財団法人SBI子ども希望財団さま	500,000
グリーンコープ共同体 子ども・若者支援カンパ	2,399,000
ORANGEWALK 2024 寄付金	200,000
個人（銀行振込・マンスリーサポーター）	23,200
株式会社Contさま	100,000
株式会社ククラズさま	100,000
合計	3,322,200

Activity

2 第3回九州こども・若者おうえん助成 助成先団体決定

親や家族を頼れないなど、社会生活が困難な状況に置かれているこども・若者たちが、社会的孤立や経済的困窮に陥ることなく自分らしく生きるための活動に従事する伴走者を支援します。
第3回助成では、若者の自立や暮らしの保障などに係る費用に助成する「若者おうえん枠」と、伴走者の活動に係る費用に助成する「活動おうえん枠」で公募し、7団体9事業に3,903,000円の助成金をお渡ししました。

※残りの基金は繰越金として次回助成および事業運営費に使用させていただきます。

若者おうえん枠 …若者の自立や暮らしの保障などに係る費用への助成

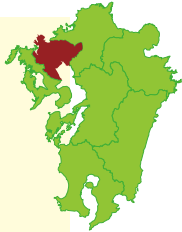
助 成 先 団 体	所 在 地	申 請 内 容（概 要）	助 成 額（円）
NPO法人 こんぺいとう企画	大分県	公的資金を充てることができない 若者の生活保障にかかる経費	199,210
認定特定非営利活動法人 心澄	長崎県	ケアリーバーやヤングケアラー、経済的 困窮者に対する生活保障にかかる経費	200,000
認定NPO法人 トナリビト	熊本県	若者の緊急的なシェルター利用に かかる経費	200,000

活動おうえん枠 …困難な状況にある若者に寄り添う伴走者の活動に係る費用への助成

助 成 先 団 体	所 在 地	申 請 内 容（概 要）	助 成 額（円）
特定非営利活動法人 あいむ	福岡県	繁華街で出会い地域と繋ぐ子ども・若者 声かけ伴走事業	500,000

こんな活動を行います！

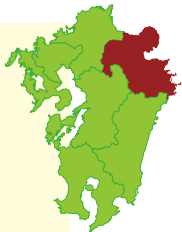
繁華街でのアウトリーチにより若者と出会い、信頼関係を基盤に他の社会資源とつなぐとともに、孤独・孤立を防ぐ居場所の運営と、他者との関係性の築き方や自分が受け入れられているという経験を重ねる個別の伴走支援を行い、社会参画や就労等の自立につなげていく。



助 成 先 団 体	所 在 地	申 請 内 容（概 要）	助 成 額（円）
NPO法人 こんぺいとう企画	大分県	デジタル表現を通じた若者の自立支援プログラム ～寄り道が居場所につながる新しい働き方～	500,000

こんな活動を行います！

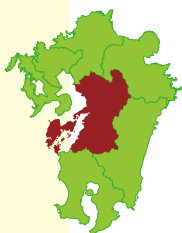
就労継続支援B型事業所ぺんぎんクリエイツの利用者（ひきこもり・障害のある若者）を対象に、SNSマーケティング、動画制作・配信、デザイン、AI活用等のデジタルスキルを習得する専門講座を実施する。本事業では、自分の障害特性、できること・できないこと、必要な配慮を言語化する力も育成する。



助 成 先 団 体	所 在 地	申 請 内 容（概 要）	助 成 額（円）
子ども若者保健室 ～らしく～	熊本県	熊本の子ども・若者自殺0を目指した 子ども支援事業	300,000

こんな活動を行います！

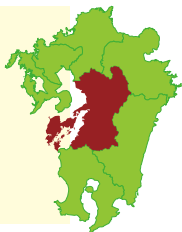
子どもが安心して過ごせる場所を提供し、自分の言葉で自分の気持ちを伝える、必要なときには助けを求めることができるいばしょづくりの開催を行うと共に、不登校や発達障害、ひきこもりなどの子どもを育てる親の支援は、子ども支援に不可欠と考え、親のしゃべり場“親カフェ”の開催や電話、DM、対面相談を行い子育て親の支援を行う。



助 成 先 団 体	所 在 地	申 請 内 容（概 要）	助 成 額（円）
認定NPO法人 トナリビト	熊本県	親を頼れない若者の緊急シェルターおよび 住居支援事業	750,000

こんな活動を行います！

家庭内不和、虐待、貧困、孤立などにより居場所を失い、緊急的な住居確保が必要となった若者に対し、一時的な居住支援と生活支援を行い、自立に向けた基盤づくりを支援する。緊急時に若者が安全に滞在できる拠点として、ワンルーム物件をシェルター兼ステップハウスとして確保する。



助成先の採択について

若者おうえん枠・活動おうえん枠の両枠とも、書類選考と面接にて選考委員が必要性、信頼性、妥当性、伴走性（寄り添い）、先駆性（活動おうえん枠のみ）の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて運営委員の合議の上で決定しました。

グリーンコープとの協働

9sapoは、特定非営利活動法人おおい子ども支援ネット（大分県）と社会福祉法人グリーンコープ（福岡県）が設立し、協働で運営しています。

一般社団法人グリーンコープ共同体

九州・中国・関西地方・福島県に展開する16の生協と約43万人の組合員からなるグループです。安心・安全な商品の開発や、心豊かな暮らしを実現する平和・環境・福祉・子育て・その他の支援など様々な事業と活動を、組合員が主役となって行っています。

社会福祉法人グリーンコープ

グリーンコープ生協とワーカーズが母体となって設立した社会福祉法人です。広島から鹿児島までの9県で、高齢者の福祉、障がい者の福祉、こどもの福祉、生活困窮者の福祉に取り組んでいます。

グリーンコープ生協学習会

ともに学び、ともに考える。
その思いが、支援の輪へ。

昨年度同様に、グリーンコープ生協の地域単位での学習会が開催され、事務局長が各地で講師を務めました。孤独感やさびしさを抱えることもや若者が自分たちのまちにもいること。親や家族を頼れなかったら若者たちはどんなことに困るだろうかと想像し、ともに考えあう、大切な時間となりました。そしてみなさまの思いを「子ども・若者支援カンパ」設立につなげていただき、合計で2,399,000円という多大な応援を寄せていただきました。各地域単協の組合員のみなさま、あたたかいご縁をいただき本当にありがとうございました。



イベントの参加

#歩いてこども支援

ORANGE WALK 2025 [2025.11.1-11.30]

11月の児童虐待防止推進月間に合わせて、こども・若者支援に関わる22団体が集結して開催されたチャリティウォークイベントに、支援先団体として初めて参加しました。虐待はあってはならないことです、加害者である大人や家族も悩みや複雑な事情を抱えていることが少なくありません。虐待が起きてしまう前に、困難を抱える親子の幸せに思いを馳せ、人と人とのつながりを失って孤独・孤立に陥ってしまうことを防ぐようなあたたかなつながりが、地域のあちこちに広がればー。

9sapoチームでは、1,193名に参加いただき、1億7,216万5,905歩。全体では34,903名の方が参加され、50億3,239万8,800歩を歩いたという結果となりました。9sapoは最終的に20万円の分配金をいただき、「九州若者おうえん基金」助成金として支援団体にお届けできることになりました。多くの方に9sapoを知ってご参加いただいたことを大変ありがたく心強く思う毎日でした。みなさまに心から感謝します。

こども家庭庁では毎年11月にオレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンを実施し、児童虐待防止のための広報など実施しています。オレンジ色には子どもたちの明るい未来や虐待を防止するというメッセージが込められています。



第2回 九州こども・若者おうえん助成 助成先団体レポート

特定非営利活動法人 佐賀子ども支援の輪 (佐賀県) 活動おうえん枠 | 650,000円



地域コミュニティ等を活用し

孤立した若者の自立を促す「おむすび(お結び)」事業

子どもシェルターを退所した方や虐待経験があるなど困難を抱える若者のための地域コミュニティとの相互交流の場「おむすび」(居場所)の運営に助成金が活用されます。若者が孤立し、生きる目標を見失う前に、負担なく相談したり手を差し伸べられる場所を提供し、自立へのサポートを行います。



助成先訪問レポート

行き場を失った子どもの“安全地帯”に。
シェルターが守る、大切な命と未来。

虐待や家庭環境の問題で、家にいられなくなった子どもたち。その命を守り、次の一歩を支える「佐賀子どもシェルター ばるーん」の施設長・松隈智子さんにお話を伺いました。



▶ 味方がいる安心を、
次の一歩へ

入所した子ども全員に担当の弁護士が就き、約10名のスタッフと共に、生活環境や進路を整えます。これまで守られる立場にいなかった子どもにとって、自分の味方がいるという実感は大きな支えです。松隈さんが大切にするのは、子どもの中にある「自分で生きる力」を信じること。子ども同士の衝突も、自分で考える機会として捉えます。「あなたでいい」と伝え続ける日々の関わりが、少しずつ安心感を育てています。

▶ 退所後も戻れる、
地域の居場所

助成金を活用し、小学校跡に始めた第2

の居場所「おむすび」。退所後も安心して戻れる場であり、シェルターの役割を地域に伝える場でもあります。

料理やものづくり、子どもの権利についての学習会などを開き、食事を共にしながら自然に理解を深めています。子どもたちの作品が参加者に喜ばれる経験は、自信にもつながります。大学の教授や養護教諭も協力し、緊急時に迅速な支援につながり関係づくりを進めています。



料理づくりの様子。



「おむすび」で食卓を囲む様子。

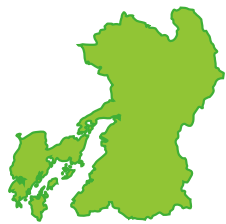


現場の声をもっと読む
訪問記事はこちらから



認定NPO法人 トナリビト(熊本県)

活動おうえん枠 | 950,000円



親を頼れない子ども・若者の居場所スペース

および相談窓口事業

社会的養護経験者や親を頼れない子ども・若者が気軽に自由に来所し、自分らしく安心して過ごせる居場所の運営に助成金が活用されます。若者たちがほっとできる居場所や大人と出会い、次への足がかりを見つける過程に寄り添い、自分らしく生きていけることを目指します。



助成先訪問レポート

若者のSOSを受け止める。

緊急の保護から、その先の暮らしまで。

家にいられない、頼れる人がいない。切迫した若者のSOSに向き合う「トナリビト」。代表理事の山下祈恵さんに、生活に寄り添う支援と、多様な機関との連携について伺いました。



▶ 日々の約束から、信頼を育てる

家庭内暴力や虐待から逃れ、行き場を失った若者たち。「トナリビト」には、施設や学校からの紹介だけでなく、夜回りやSNS相談を通じてSOSが届きます。以前に出会った若者が、時間を経て助けを求めてくることもあります。日中の居場所か、緊急の避難先か、継続した生活支援か。一人ひとりの状況を見極め、必要に応じて弁護士などの専門職とも連携しています。

自立支援シェアハウス「IPPO」は、将来一人暮らしを身につける生活の場です。事情を理解する大人と一緒に暮らし、相談に乗り、食卓を囲みながら成長に寄り添います。スタッフが夕食を用意しても、自分で使った皿は自分で洗う。生活の基本を日々の中で積み重ねています。大人の言葉が守られない環境で育った若者も多いからこそ、支援者自身が約束を守る姿勢を示す。その経験が安心感となり、信頼関係の土台になっています。



▶ 状況が変わっても、支援をつなぐ

年間600件以上の相談に対応する中で、大きな課題となっているのが緊急時の受け入れです。住まいを確保するとともに、その後の生活再建まで支える仕組みが求められています。若者が抱える課題は複数にわたることが多く、一つの支援だけでは対応しきれません。

妊娠・出産に関わる問題を抱える若者には、妊産婦を支える「みらいはうす熊本」と連携しています。妊娠中に支援を受けていても、状況が変われば別の支援が必要になることがあります。それでも、家や頼れる人がないという困難は残ります。そのときはトナリビトが住まいや生活再建を支え、関わりをつないでいきます。

山下さんが目指すのは、限界に達する前から「困ったら相談していい」と思える関係を地域に増やすこと。制度や支援の枠が変わっても若者が取り残されず、安全に生活を立て直せるよう支え続けています。



ラーメンなどの料理を囲み交流する様子。



現場の声をもっと読む
訪問記事はこちらから



認定特定非営利活動法人 心澄(長崎県)

活動おうえん枠 | 519,000円



失敗&成功体験事業

～若者のチャレンジを支える伴走型支援～

ケアリーバーを含む若者当事者によるカフェの運営と、若者の緊急避難や一時保護を行う際に必要となる経費に助成金が活用されます。より多くの若者が安全に安心して暮らし、つながりや生きる意欲を育み、社会的自立へ向けてステップを踏める環境づくりを目指します。



助成先訪問レポート

「生きていける」を支え続ける。

途切れさせない、若者支援のかたち。

複数の困難を抱える若者に、時間をかけて寄り添う「心澄」。理事長の宮本鷹明さんに、必要な支援をつなぐ取り組みと、地域に開かれた居場所について伺いました。



▶ 何度でも戻れる関係を、時間をかけて

不登校や引きこもり、虐待、経済的困窮など、若者が抱える困難は一つとは限りません。「心澄」は総合相談を入り口に、就労支援やグループホーム、アフターケアなどを組み合わせています。行政の事業では対象外となり、対応できない場面に直面するたび、必要な支援を届けるために事業を広げてきました。まずは安心して生きるための土台を整えること。そのためには時間が必要です。関わり始めて約7年がたち、ようやく人との関係を大切に思い始めた若者もいます。短期間で支援を終えるのではなく、何度でも戻ってこられる関係をつくることが、自立につながると考えています。

外食や県外への旅行も、人との関わり方や余暇の楽しみ方を知る機会です。ネイルが得意な若者には、パーツ制作という活躍の場を用意する。「これならできる」「役に立てる」という経験を重ね、自分にもできることがあるという実感を育み、信頼関係の土台になっています。

▶ カフェから広がる、人と地域のつながり

助成金は、2024年に長崎市浜町に開いた「From1」の運営にも役立っています。ケアリーバーなどの居場所にカフェを併設し、困りごとの有無にかかわらず、さまざまな人が自由に立ち寄れる場所です。相談窓口を訪ねる勇気が出ない若者も、カフェで少し話すことから、人とのつながりを持てるかもしれません。虐待や引きこもりを経験した人が、カフェで働きながら社会との接点を見いだす場にもなっています。働く楽しさや、人と出会う面白さを感じられることを大切にしています。宮本さんが目指すのは、一つの団体だけで完結せず、地域全体で若者を支え続ける仕組みです。



カフェの様子。

資金や場所に課題を抱える支援団体も多い中、「From1」を地域に開き、支援の輪が広がる拠点にしたい。そして、支援を受けてきた若者が、次の若者を支える側へ回る。そんな支援の循環を描いています。



別府旅行の様子。



現場の声をもっと読む
訪問記事はこちらから



子ども若者保健室～らしく～(熊本県)

活動おうえん枠 | 300,000円

熊本の子ども若者自殺0を目指した
子ども支援事業

地域の子どもたちが安心して過ごし、必要なときには助けを求めることができる居場所づくりと、困難を抱えた子どもの親が交流できる親カフェの運営費に助成金が活用されます。子ども若者、親を孤立させない地域社会づくりと熊本の子ども若者自殺0を目指します。



助成先訪問レポート

「そこにいる」ことをたいせつに。
子どもと親の孤立をほどく、地域の居場所。

学校や家庭だけでは抱えきれない悩みに寄り添う「子ども若者保健室～らしく～」。藤戸邦子さんに、子どもが安心して過ごせる居場所と、親を支える活動について伺いました。

▶ 何もしない時間も、
大切な居場所

下校時間になると、子どもたちが自然に集まってくる「らしく」。宿題をしたり、おやつを食べたり、工作や友達とのおしゃべりを楽しんだり。それぞれが自分のペースで過ごし、何もしないで座っているだけでも構いません。学校で頑張り続ける子どもにとって、何もしなくていい時間も大切な休息です。

活動を始めた藤戸邦子さんは、元看護師。病院で家庭の問題を抱える若い患者と接し、自身の子どもの不登校も経験する中で、医療や学校の外にある支援の必要性を感じ、2024年に居場所を始めました。

高齢者施設に併設され、世代を超えた自然な交流が生まれることも特徴です。子どもの行動だけで判断せず、落ち着いて話を聞き、その背景にある気持ちを受け止める。特別な指導よりも「一緒にいること」を大切にし、雑談の中からこぼれる悩みや不安に耳を傾けています。



施設を活用した「子どもの居場所」と「親カフェ」。

▶ 親にも、安心して話せる
時間を

子どもを支える親自身が、誰にも相談できず孤立していることもあります。「らしく」では毎月「親カフェ」を開き、YMCAの職員や大学生ボランティアが子どもを見守る間、親同士が安心して話せる時間を設けています。集まりに参加しづらい人には、個別相談でも話を聞いています。

重視するのは、すぐに解決策を示すことより、気持ちを吐き出せる場であること。他の親の経験を聞き、「自分だけではない」と感じたり、子どもへの接し方のヒントを得たりしています。不登校の中学生の母親が、子どもに優しい言葉をかけられそうだと話して帰ったこともありました。

今後は、フードサポートなどを通じて、より困難を抱える家庭とも自然につながりたいと考えています。物資の支援を関係づくりのきっかけに、親子の困りごとを早い段階で受け止め、地域で支える輪を広げようとしています。



訪れる子どもたちの様子。

現場の声をもっと読む
訪問記事はこちらから

ご支援(寄付)のお願い

こども・若者たちに希望を、伴走者たちに安心を。

現行のこども・若者に関する制度ではカバーしきれない困りを受けとめ、伴走する支援者や支援団体に助成を行うための「九州若者おうえん基金」は、みなさまのご寄付でつくられています。こども・若者が頼れる大人ともに自立に向けて希望を持てるよう、伴走者に安心を届けられるよう、ご寄付でのご参加・ご協力をよろしくお願いいたします。

■銀行振り込みでのご支援

九州労働金庫	金融機関	九州労働金庫
	支店名	大分支店
	口座種類	普通
	口座番号	6583812
	口座名義	九州若者サポートネットワーク 事務局長 矢野茂生

ゆうちょ銀行	金融機関	ゆうちょ銀行
	記号番号	01770-8-153784
	名称(漢字)	九州若者サポートネットワーク
	名称(カナ)	キュウシュウワカモノサポートネットワーク

ご寄付いただいたみなさまにはお礼のご連絡や活動報告書をお届けいたしますので、お手数ですが下記アドレス宛へのメールまたはフォームからご氏名やご住所をお知らせいただけますと幸いです。

Mail : info@9sapo.com

九州若者サポートネットワーク大分事務局

お振込連絡フォーム
QRコード<https://forms.gle/tKzvpQYwFbtNpvc9>

■クレジットカードでのご支援

定額を毎月寄付

9sapoとともにこども・若者を継続的に支えてくださるマンスリーサポーター(毎月の継続寄付者)となってくださる方を募集しています。月額300円よりご寄付いただけます。継続寄付でなく、その都度自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしています。ご寄付についてご不明な点がございましたらお気軽に事務局にお問い合わせください。

※寄付システム「Syncable」を利用しています。

※クレジットカード情報は当団体で保持せず、決済代行会社のOmise株式会社にて国際基準に準拠して安全に管理されます。

自由な金額を単発寄付

継続寄付でなく、その都度、自由な金額でのご寄付もありがたくお受けしています。

Syncable

マンスリー
ファンディング
はじめました

\$

月々300円から可能

マンスリーサポーター
登録QRコード<https://syncable.biz/associate/9sapo>

編集後記

9sapoのホームページには「九州にはあったけーひとがおる。」というメッセージが出てきます。今年もその言葉と、いろんな方々の顔を思い出しながら活動報告書をまとめました。九州各地のこどもたちや若者を応援しようという「ひとつの想い」。そのバトンが運営メンバー、社会福祉法人グリーンコープの皆さま、数多くの個人、団体、企業の皆さま、そして助成先団体へと、まさにつながり、ひろがっていく日記のような報告書が出来ました。

世の中は便利になり、机の上でもパソコンを開いても、社会のいろんな情報を知ることができます。そんな中、9sapoはできる限り、助成先団体が活動するまちへ出向き、現場を見て、支援する方々の声を聞くことを大切にしています。時には厳しい現実を目の当たりにして言葉を失うこともあります。訪問先の施設でテーブルを囲みながら雑談することで、これからの支援のヒントをいただくこともあります。私たちはこれから現場の「声」を九州のあったけーひとたちにしっかりとつないでいきます。ずっと先の未来も「おうえんしたり、されたりしながらつながりあう」ネットワークを目指して。(広報チーム：河野)